

■ 現状と課題

- ・ 地域の中には様々な人が暮らしています。障害、LGBTQ、外国籍など様々な理由や状況から偏見や誤解により「自分らしく生きる」ことが困難な状況があります。
- ・ 住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで可能な限り続けられるよう地域でその人を支える仕組みづくりが必要です。
- ・ 一人ひとりがその人らしく暮らすためには、制度の充実だけでなく当事者による活動や地域活動の充実が必要です。

■ 地域での取り組み

- ・ NPO法人や任意団体、当事者や当事者家族などが、それぞれの視点でその人らしく暮らせる地域をつくるため、子ども食堂やサロン活動等の様々な居場所づくりを行います。
- ・ 障害がある人のために、必要な医療・福祉サービスや生活状況を整理し、親あるうちに情報を残しておく活動をサポートします。また、親同士の情報交換の場を作ったり、講座、講演会を開催します。
- ・ 認知症当事者やその家族が認知症を理解し、支え合ってより良い介護ができるよう情報交換の場を作ります。

■ 練馬区社協の取り組み

- ・ その人らしい地域生活を送れるよう支援していくために当事者による活動を引き続き支援し広げていきます。
- ・ 判断能力の低下した人も自分の意思が尊重され、希望を叶えて安心して生活を送ることができるよう、成年後見制度や地域福祉権利擁護事業などを通じ、関係機関と連携して支援します。
- ・ 個別の課題から出てきた一つ一つの課題を地域課題として捉え、権利擁護の視点を持ち個人の地域生活を支える仕組みづくりを行います。
- ・ 人生を最後まで自分らしく生きるために「終活」について一緒に考え支援します。

目指す姿

誰もが自分らしく地域で暮らせる



地域でこんな取り組みが
広がっています

地域生活を支える様々な活動

地域住民や当事者、当事者家族、団体などが様々な視点でその人らしい地域生活を支える活動をしています。

Will の会 ～ Will ノート～

障害がある人の必要な支援や医療、生活状況等をまとめる「Will ノート」の作成を、障害がある人のご家族に呼び掛けています。ノートは、誰が見ても分かるように視覚的な工夫をしたり、より良い支援につながるような記載を心掛けています。

また、参加者同士の情報交換や交流は、多様な生き方をお互いに知り、視野を広げる機会となっています。

NPO法人成年後見推進ネットこれから ～これからノート～

認知症や障害があっても住み慣れた地域で暮らし続けるため、成年後見制度の普及を目指して、相談活動や講演会などを行っています。

また、自身のこれからを見つめ直す「これからノート」の普及活動も行っています。「これからノート」は、本人が意思表示できなくなったときに本人の意向を伝えるツールとなるだけでなく、終活を何から始めたらよいか悩んでいる人にとっては考えるきっかけにもなっています。

きらら・ういんぐの「ピアサポーター」って？

精神科病院に長期入院している人が、退院後地域で自分らしく暮らすイメージを持てるように、同じ地域に住む障害がある人が病院などに行き、自らの経験を話す活動です。入院している人には地域生活をイメージでき、ピアサポーターである当事者は自らの言葉で話す役割を担うことで双方に有意義な活動となっています。

また、「ぴあまっぷ」という情報紙を作成し、同じ障害がある人や関係者へ地域の情報を発信しています。長い間、入院生活をしている人にとっては地域で暮らすための社会資源や生活の様子などを知る機会になっています。

自分の人生を生きたい ～Aさんとの出会いから～

家賃の補助制度を利用したいと生活サポートセンターの窓口に来所されたAさんは、男性として生まれましたが、長年自分自身の性別に対して違和感を抱きつつ生きて来られました。長男だからと両親の気持ちを思い、70歳まで周囲に表明することなく男性として働き続けてきた、でもその区切りとした70歳になった今、これからは女性として生きていきたい、自分らしい生き方を認めてくれるところで働きたいと話すAさんに職員は心を打たれました。税の滞納もあり生活はぎりぎりでしたが、家賃補助制度を利用し、就労サポーターに相談しながらウィッグや女性らしい服装、通称利用を認めてもらえる職場を探しました。働き始め自分らしく生き生きと輝くAさんの姿は、その人らしい生き方を支える価値を職員に教えてくれました。今は長年の夢、ウエディングフォトを撮るための貯金を始めています。

